

後援会だより

年頭にあたって



後援会会長
ちば だいいち
千葉 大一
(優一/文学部)

明けましておめでとうございます。2014年の新春を迎え、後援会を代表してご挨拶を申し上げます。

後援会は本年度創立67年目を迎える歴史と伝統がある全国組織です。本年も、後援会の活動目的の通り、学生や大学の支援、後援会会員の皆さま(父母)向けの企画や情報発信を、全国36支部と連携し、行つて参ります。

学生や大学に対する支援は多岐にわたりに行っていますが、財政的な支援に加え、スポーツ応援にも力を注いでおります。六大学野球、アメフト、ラグビー、駅伝などの試合に駆け付けていますが、今後は応援するスポーツを拡大していく検討も行っていきます。

本年4月には、卒業生組織である校友連合会が一般社団法人化され、新しい卒業生組織(法政大学校友会)に生まれ変わり、現在の4年生より

卒業と同時に校友会の終身会員となります。

後援会は、卒業生個々の活躍に加えて、卒業生ネットワーク強化により、法政大学のブランド力と社会的評価が高まること、そして学生の就職活動の力になれるような組織となることを校友会に期待しています。更には、後援会としては校友会と連携して、これまで以上に学生や大学への支援を強化できる体制を目指して参ります。

法政大学の建学の精神は「自由と進歩」であり、法政大学には既成概念にとらわれない自由な発想で考え、新しい問題に積極的にチャレンジする自立型人材を育成するため、恵まれた教育、研究施設が整っています。後援会は学生のため、大学環境をさらにより良きものにするため、後方から支援を続けていきます。

最後に、会員の皆さまには、本年も引き続き後援会活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。皆さまにとって実り多き年となることを祈念しております。

写真で見る後援会 (2013年4月~11月)



4月13日(土) 監査
(市ヶ谷キャンパス九段校舎後援会事務局)



5月18日(土) 新役員予定者説明会
(市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー)



5月25日(土) 野球観戦
(神宮球場)



6月1日(土) 支部長会議
(市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー)



6月1日(土) 総会
(市ヶ谷キャンパス通達ホール)



6月22日(土) 役員研修会
(日本出版クラブ会館)



6月27日(木) 常任参与・参与と運営委員会懇談会
(市ヶ谷キャンパス九段校舎)



6月29日(土) キャンパス見学
(小金井キャンパス)



8月17日(土) 新潟県支部総会・父母懇談会
(万代シルバーホテル)



10月19日(土) 首都圏父母懇談会
(多摩キャンパス大教室B棟)



11月8日(金) 支部長懇談会
(市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー)



11月9日(土) 学部長後援会懇談会
(市ヶ谷キャンパス外濠校舎)

総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会報告



後援会総務
いけだ たかし
池田 隆
(恵一/デザイン工学部)

11月27日(水)に九段校舎5階会議室にて、総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会が開催されました。後援会が、大学や学生の現在の状況や、大学のこれからのあり方、取り組みなどについて、直接大学と意見交換する機会として、毎年行われています。

大学側からは増田壽男総長と常務理事・理事の方々など計8人、後援会側は千葉会長以下運営委員7人と



事務局長が出席しました。後援会からは予め提出した質問事項(キャンパス・施設の充実化、大学のイメージアップ戦略、地方入試の現状や受験者増への施策など)について、総長・担当理事から説明をいただき、意見交換を行いました。

少子化に伴う大学間の競争が激しさを増しつつある今日ですが、法政大学の価値や評価を最大化するために努力されている状況がよく理解出来ました。後援会としても、大学の姿勢を理解・支援し、より良い学びの場の実現に協力してゆきたいと思



※()内は皆さまの名前/学部



まるた まりこ
丸田 真理子
(京/法学部)

幼稚園でマウンテンバイクに出会った京の兄(直)が、小学1年の時に子供用自転車大会に参加したことがきっかけで、週末には家族で全国のマウンテンバイクやロード・レースの自転車競技会に遠征するようになりました。

法政二高に入学した直は、ロード・レースと共にトラック・レース競技への新たな挑戦が始まり、部の仲間と切磋琢磨してインターハイでの活躍を目指す充実した3年間となりました。

春、夏の合宿では連日ロードバイクで200〜300キロ走る部員の体力、気力の限界に挑む逞しい姿を間近で応援した妹の京も、高校の大会に挑戦する気持ちになりました。高校時代は練習中に2度落車してしまい、救急車で運ばれることもありましたが、それでも辞めないことに私は驚くとともに、娘の決意を感じました。全国高等学校選抜選手権自転車競技大会において優勝し、日本代表としてアジア大会、日韓学生対抗自転車競技大会にも出場することができましたのは、通っていた共立女子第二高等学校の先生方や、練習



2013 インカレ 500m タイムトライアル車優勝

にご協力いただきました他校の先生方と部員の皆さんのおかげと感謝しております。

1937年創部の法政大学自転車競技部は、全日本大学対抗選手権大会(インカレ)で10連覇を達成しています。その伝統を守るため、部員約25人は切磋琢磨し、インカレで優勝するという目標に向かって日々練習に励んでいます。平日は朝5時から80キロ程度、週末は150キロ程度のロード練習に行きます。

先に法政大学に進学していた直が3年生の年に京も法政大学に進学し、自転車競技部に入部させていたことができました。

直が4年生の年、最後のインカレに向けて4年生が団結して下級生を引つ張り、チーム一丸となって臨んだインカレでは、団体種目の一つであるチームスプリントで、男女共に最終日の決勝戦に進みました。残念ながら男子は0:3秒、女子は0:1秒の僅差で破れ準優勝となりましたが、最後の最後まで競り合う大接戦で会場を沸かせた様子を見て、感動し涙が溢れました。選手たちは、悔しかったと思いますが、満足しているようにも見えました。

ロード・レースでは、レース中に自転車にトラブルが発生したエースにアシストの選手が自分の自転車を託し、エースが6位に入賞するというドラマがありました。その結果、総合で3位に入賞することができ、主将の直も感慨無量だったと思います。



全国高等学校選抜大会 500m TT優勝・チャンピオン ジャージを着て表彰台に立つ

4年間、かけがえない素晴らしい仲間が恵まれ、競技生活と学生生活を両立できたことに感謝しています。

京は今年から唯一の女子部員となりましたが、男子と共に練習し、部の仲間の声援が力となり、今年のインカレでは2種目で準優勝することができました。

都甲泰正監督のもと、来年のインカレでは総合優勝という目標に向かって既に始動しています。京には、長年継続してきた自転車競技の集大成として、自分の限界に挑戦し、悔いの残らない結果を残して欲しいと願っています。

これからも、自転車競技部の応援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



第10回マウンテンバイクフェスティバル イン線山スタジアム3〜6歳の部(5歳)で優勝

支部企画によるキャンパス見学、スポーツ応援ツアー



とまつ
戸松 みゆき
(慶希/社会学部)

9月21日(土)の長野県支部を皮切りに10月27日(日)までの週末を利用した支部キャンパス見学、スポーツ応援ツアーが実施されました。

この行事は、各支部の企画により、3キャンパスの見学、東京六大学野球を始めとするスポーツ応援をするものです。バスを貸し切り、2日間のスケジュールを組み全体で行動する支部や、現地集合現地解散、宿泊も自由の支部、また、3キャンパスを全て見学する支部や、神宮応援だけの支部もあり、その方法や内容は支部オリジナルのものであります。

共通しているのは、親元から離れた東京で暮らす子どもたちの様子、通う大学を知りたいと思うことでしょうか。それは保護者としては当然の気持ちだと思います。

実施する支部数は年々増えており、今回は36支部中22支部からスポーツ観戦や3キャンパス見学など、のべ721人の参加者がありました。

市ヶ谷キャンパスでは、経験豊かな学生ガイドの案内により1時間をかけて構内を巡る見学が好評でした。多摩キャンパスでは、後援会寄贈の構内巡回バスに乗り、職員

案内により広大な敷地を実感していただきました。また、小金井キャンパスでは、新しい校舎内の充実した設備に驚かされていました。「この環境で学んでいる子どもがうらやましい」と仰られた保護者の言葉に周りの皆さんがうなずいていた光景が印象深く残っています。

「法政に入学したのだから一度は六大学野球を観戦したい」

神宮でプレイする華やかな選手達の活躍に沸きました。また、試合後には野球部宮脇典彦部長のご配慮により、選手達と記念写真を撮る嬉しいサプライズが用意された支部もありました。選手達はもちろんのこと、応援団の熱い姿に魅了された方も多かったのではないのでしょうか。

キャンパス見学にご対応いただきました職員皆さま、神宮でお世話になりました野球部、応援団の皆さま、支部のスケジュールに合わせて営業時間を変更して下さいました生協、H.Uの皆さまに深く感謝いたします。

多くの方々のご協力があったからこそ成り立つ後援会行事だということを忘れてはならないと思います。「おもてなし」は、ここ法政大学でも感じる事ができました。



「第3回あずまボウル」観戦記



なかもら けいこ
中村 恵吾
(建斗/理工学部)

11月24日(日)秋晴れの好天の中、関東大学アメリカンフットボール選手権のチャンピオンシップゲーム「第3回あずまボウル」が横浜スタジアムにてキックオフしました。甲子園ボウルの出場をかけた大一番の試合です。

「日本一」を目指すトマホークスを応援すべく、観戦に駆け付けました。我々を含め1塁側の観客席はスタンドがオレンジ一色で埋め尽くされました。

試合は幸先良く1Qの中盤にフィールドゴールにてトマホークスが3点を先制しましたが、その2分後日大がこのゲーム唯一のタッチダウンを決め3対7となりました。2Q終了間際に日大がフィールドゴールで3点、3Q中盤には法政がフィールドゴールで3点を追い上げ、一進一退の好ゲーム展開で4Qを迎えました。

トマホークスは終始押し気味に試合を進めましたが、終盤敵陣にて悪夢のファンブル。そこからはオフエンスにまわることなく試合終了間際に日大に3点を加点され、6対13で敗戦してしまいました。

敗戦の教訓を心に刻み、進化したトマホークスをより多くの会員の皆さまと試合観戦し応援したいと願っています。



後援会ウェブサイトのご案内

URL:<http://www.hosei-koenkai.org/>

法政大学のウェブサイトを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。



「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、ラグビーや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人ひとりの力は小さくても、一致団結して盛り上げていきましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp

